

為替週間展望 = ドル円は高値圏でのみみ合いか

[6月20日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月13日～6月17日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	134.32	135.59(15)	131.50(16)	134.41	0.00
ユーロ・ドル	1.0523	1.0601(16)	1.0359(15)	1.0498	-0.0021

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	25,963.00	-1861.29	日本10年債利回り	0.234	-0.019
ダウ平均株価	29,927.07	-1465.72	米10年債利回り	3.195	+0.040

<来週の主要経済統計等>

- 20日 英6月ライトムーブ住宅価格
独5月生産者物価指数
※米国市場は祝日で休場
- 21日 ユーロ圏4月経常収支
カナダ4月小売売上高
米5月中古住宅販売件数
- 22日 NZ5月貿易収支
英5月消費者物価指数、英5月生産者物価指数、英5月小売物価指数
カナダ5月消費者物価指数
パウエルFRB議長、半期に一度の議会証言
- 23日 独6月製造業PMI速報値、独6月非製造業PMI速報値
ユーロ圏6月製造業PMI速報値、ユーロ圏6月非製造業PMI速報値
英6月製造業PMI速報値、英6月非製造業PMI速報値
米第1四半期経常収支
米新規失業保険申請件数
米6月製造業PMI速報値、米6月サービス業PMI速報値
欧州連合(EU)首脳会議(24日まで)
- 24日 日本5月消費者物価指数
独6月ifo景況感指数
米5月新築住宅販売件数、米6月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】FOMCでの当面の金融引き締めスタンスには変化はないとみられ、ドル買いの地合いは継続しそうだ。ドル円は底堅い流れが続くそうだが、大きく上昇が続いてきたことで、テクニカル的な過熱感も警戒される。こうした中、ドル円は高値圏で荒れた動きが見込まれるとした。

【FOMCでは0.75%の利上げ】

6月10日発表の5月の米消費者物価指数が市場予想を上回ったことで、6月の米連邦公開市場委員会(FOMC)で、当初見込まれていた0.50%の利上げでなく、0.75%の利上げに動くとの見方が広がり、ドル買いの動きが広がった。

15日の6月の米連邦公開市場委員会(FOMC)の結果発表では、0.75%の大幅な利上げを決定した。「0.75～1.00%」から「1.50%～1.75%」に引き上げられた。0.75%の利上げは1994年以来、約27年ぶりとなる。

パウエル議長は記者会見で、「今年のインフレ率の見通しが大幅に上昇したことを考慮して、大幅な利上げが適切と判断した」、今後の利上げペースに関しては、「0.7

5%の利上げが普通になるとは想定していない」と述べた。また「次回の会合では、0.50%か0.75%の利上げの可能性が高い」との見解を示した。

FOMC参加者による政策金利見通しの中央値は、今年末に3.4%（3月時点1.9%）、2023年末に3.8%（同2.8%）となった。今年10-12月期のインフレ率見通しは前年比+5.2%（3月時点+4.3%）、コアインフレ率見通しは+4.3%（同+4.1%）といずれも前回の予測から上方修正された。

日米の金利差がさらに拡大するとの懸念がいったん後退して、ドル円は133円台半ばまで下落を見せた。その後、16日の東京市場では134円台を回復した。その後、ロンドン時間にスイス中銀が予想外の0.25%の利上げを行ったことで、日銀も引き締めにくさの思惑が広がり、円高が進行した。NY時間にドル円は131円台半ばまで円高に振れた。ただ、17日には134円台までドル高円安に振れるなど荒れた動きを見せている。

17日の日銀金融政策決定会合の結果発表では金融政策の現状維持を決めた。発表後にドル円は高下したものの、その動きが落ち着くと134円近辺で堅調に推移している。日銀の黒田総裁は記者会見で、従来の金融緩和姿勢を強調した。

黒田総裁は、「金融・為替市場の動向や経済・物価への影響を十分注視」「感染症やウクライナ、資源価格の動向など不確実性極めて高い」「企業の資金繰り支援と金融市場の安定維持に努める」「必要あれば躊躇なく追加緩和措置を講じる」「最近の急激な円安進行、経済にマイナスであり望ましくない」と述べた。長期金利の許容変動幅拡大については「そういうことは考えていない」との見解を表明した。従来の緩和姿勢が強調されたことで、ドル円は134円台前半から半ばで円安気味に推移している。

今年末時点でのFOMCメンバーによる米政策金利の見通しは3.4%となっており、今度の経済指標の結果などに左右されるものの、今年残り4回の会合では毎回0.25~0.75%程度の利上げが見込まれる。米長期金利も緩やかに上昇する可能性が高く、ドル円は底堅い動きとなりそうだ。ただ、テクニカル面での修正安の可能性もあり、高値圏で荒れた動きが続くとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、130.00~136.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、21日に米5月中古住宅販売件数、23日に米第1四半期経常収支、米新規失業保険申請件数、米6月製造業PMI速報値、米6月サービス業PMI速報値、24日に日本5月消費者物価指数、米5月新築住宅販売件数、米6月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは上値の重い展開か】

欧州中央銀行（ECB）は15日に緊急会合を開催した。パンデミック緊急購入プログラム（PEPP）の運用に柔軟性を持たせるように見直すことを表明した。保有資産の償還資金の再投資を行う際にイタリアやスペインなどの南欧諸国の国債購入を増やす意向とみられる。財政基盤の弱い国への支援が目的とみられる。足元ではドイツとイタリアやスペインなどの南欧諸国との利回り格差が拡大していて、対応を求められていた。

ECBは7月の理事会で0.25%、9月に0.50%の利上げに動くと思われるが、FRBの利上げペースの方が大幅、かつ持続的であり、ドルに対するユーロの相対的な弱さにつながりやすいとみられる。このため、ユーロドルは上値の重い展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0100~1.0700ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、20日に英6月ライトムーブ住宅価格、独5月生産者物価指数、21日にユーロ圏4月経常収支、カナダ4月小売売上高、22日にNZ5月貿易収支、英5月消費者物価指数、英5月生産者物価指数、英5月小売物価指数、カナダ5月消費者物価指数、23日に独6月製造業PMI速報値、独6月非製造業PMI速報値、ユーロ圏6月製造業PMI速報値、ユーロ圏6月非製造業PMI速報値、英6月製造業PMI速報値、英6月非製造業PMI速報値、24日に独6月IFO景況感指数などがある。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。